

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

- DP1: 自らの研究課題に関連する周辺領域の先行研究内容を多角的に理解し、説明することができる
- DP2: 自らの研究課題に直接的に関連する先行研究内容を理解し、説明することができる
- DP3: 自らの研究課題の目的、方法、結果、およびその意義を説明することができる
- DP4: スポーツ健康科学分野の指導現場において必要とされる科学的根拠について説明することができる

【技能】

- DP5: スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に論文としてまとめ、また、発表する能力を有している
- DP6: スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する能力を有している

【態度・志向性】

- DP7: 自らの研究分野における研究倫理基準を遵守する姿勢を有している
- DP8: スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する姿勢や意欲を有している
- DP9: 自らの研究や指導成果を国内外に広く発信する姿勢と意欲を有している

*3つのポリシー DPと
特に強く関連: ◎ 強く関連: ○

科目	部門	専修	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解				技能		態度・志向性			
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	
主要科目	体育学	スポーツ社会学	スポーツ社会学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ社会学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ社会学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ社会学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ社会学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		マネジメント学	スポーツマネジメント学特講ⅠA(※2)	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツマネジメント学特講ⅠB(※2)	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツマネジメント学特講ⅡA(※2)	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツマネジメント学特講ⅡB(※2)	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツマネジメント学特別研究(※2)	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	体力学	体力学	体力学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			体力学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			体力学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			体力学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			体力学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		スポーツ計量学	スポーツ計量学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ計量学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ計量学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ計量学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ計量学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		栄養学	分子スポーツ栄養学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			分子スポーツ栄養学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			分子スポーツ栄養学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			分子スポーツ栄養学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			分子スポーツ栄養学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		スポーツ医学	スポーツ医学	スポーツ医学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎		
				スポーツ医学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎		
				スポーツ医学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎
	スポーツ医学特講ⅡB			2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
	スポーツ医学特別研究			6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	保健安全学		保健安全学特講ⅠA(※3)	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			保健安全学特講ⅠB(※3)	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			保健安全学特講ⅡA(※3)	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
保健安全学特講ⅡB(※3)			2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎		
保健安全学特別研究(※3)			6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○		

主要科目	スポーツ医学	整形外科	スポーツ整形外科特講ⅠA(※2)	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ整形外科特講ⅠB(※2)	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ整形外科特講ⅡA(※2)	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ整形外科特講ⅡB(※2)	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ整形外科特別研究(※2)	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	コーチ学	トレーニング学	トレーニング学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			トレーニング学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			トレーニング学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			トレーニング学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			トレーニング学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		スポーツ運動学	スポーツ運動学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ運動学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ運動学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ運動学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ運動学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		バイオメカニクス	スポーツバイオメカニクス学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツバイオメカニクス学特講ⅠB	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツバイオメカニクス学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツバイオメカニクス学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツバイオメカニクス学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		行動科学	スポーツ行動科学特講ⅠA(※1)	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ行動科学特講ⅠB(※1)	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ行動科学特講ⅡA(※1)	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ行動科学特講ⅡB(※1)	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ行動科学特別研究(※1)	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		体育科教育学	体育科教育学	体育科教育学特講ⅠA	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎		
				体育科教育学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎		
				体育科教育学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎
				体育科教育学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎
				体育科教育学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
	学校保健		学校保健安全学特講ⅠA(※4)	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			学校保健安全学特講ⅠB(※4)	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			学校保健安全学特講ⅡA(※4)	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			学校保健安全学特講ⅡB(※4)	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			学校保健安全学特別研究(※4)	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	運動健康学	運動健康学	運動健康学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			運動健康学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			運動健康学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			運動健康学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			運動健康学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		スポーツ内科学	スポーツ内科学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ内科学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			スポーツ内科学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ内科学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			スポーツ内科学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		運動行動科学	運動行動科学特講ⅠA	2	1	前期	◎	◎	◎	◎			◎			
			運動行動科学特講ⅠB	2	1	後期	◎	◎	◎	◎			◎			
			運動行動科学特講ⅡA	2	2	前期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			運動行動科学特講ⅡB	2	2	後期	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
			運動行動科学特別研究	6	1~2	2年通年	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	共通必修科目		体育学研究概論	2	1	前期				○	◎			◎	◎	○
			体育情報処理学特論	2		集中前期	◎	◎			○				◎	
	特修科目	非専修科目	多変量解析論特論	2		前期	◎	◎			○				◎	
			メンタルマネジメント特論	2		前期	◎	○	○	◎			○	◎	◎	○
			トレーニング学特論	2		後期				○	◎		◎	○	◎	○
			運動処方学特論	2		集中前期	○	○	○	◎			○		◎	
			運動栄養学特論	2		集中前期	◎	◎	◎	◎			○		○	
			運動療法特論	2		後期				○	◎		○	◎	◎	○
			スポーツ障害特論	2		後期	◎	◎	◎	◎			○	○	○	○
			体力学特論	2		後期				○	◎		○	◎	◎	○
			スポーツ整形外科実習	1		通年	○	○	○	○			◎	○		
			体育科教育学特論	2		後期				○	◎		○	◎	○	

特修科目	非 専 修 科 目	スポーツ運動学特論	2	1年 もしくは 2年	後期			○	◎		○	◎		
		運動健康学特論	2		後期			○	◎		○	◎	◎	○
		体力学特設講義	2		集中前期			○	◎		○	◎	◎	○
		運動健康学特設講義	2		集中前期	○	○	○	◎		◎		◎	
		健康スポーツ心理学特論	2		前期	○	○	○	◎		◎	○	◎	○
		野外教育・レクリエーション特論	2		後期	◎	◎	○	○		○		◎	
		スポーツ社会学特論	2		後期	○	○	○			○		◎	
		学外研究及び研修Ⅰ	1		通年	◎	◎	◎	○	○	○	◎		
		学外研究及び研修Ⅱ	1		通年				◎	◎	◎	◎	◎	◎
		スポーツバイオメカニクス特論	2		前期			○	◎		○	◎	◎	○
		学校保健安全学特論(※4)	2		後期	○	○	◎	◎		○	○	○	○
		分子スポーツ栄養学特論	2		後期	◎	◎	◎	◎		○		○	
		スポーツ神経科学特論	2		集中前期			○	◎		○	◎	◎	○
		国際学会発表スキル特論Ⅰ	2		前期	○	◎	○		◎				○
		国際学会発表スキル特論Ⅱ	2		後期	○	○	○		◎		○		◎
		発達支援教育学特論	2		後期	○	○		◎		◎	○	◎	○
		スポーツコンディショニング学特論	2		後期	◎	○	○	○					
		スポーツコンディショニング学実習	1		通年	○	○	○	○		◎			
		スポーツマネジメント特論	2		後期	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○
		保健安全学特論(※3)	2		後期	○	○	◎	◎		○	○	○	○

※1 令和5年度以降設置科目 ※2 令和4年度以降設置科目 ※3 令和3年度以降設置科目 ※4 令和3年度以降廃止科目

※博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年（標準修業年限）以上在学し、専修科目の特別研究担当者を指導教員として下記で示す所定の単位を修得し、当該課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査、及び最終試験に合格することとする。

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

- ・必要修得単位：30単位以上
 必修科目：16単位（専修科目14単位、共通必修科目2単位）
 選択科目：14単位以上（当該又は、他の特修部門の授業科目のうちから14単位以上）

- *一つの専修部門を選定し学生の専修科目とする。
- *専修科目の特別研究担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。
- *専修科目の演習は、2年間14単位の履修を原則とする。
- ・修士の学位論文は、専修科目について提出する。

科目分類の説明

博士課程前期では6部門16の専修科目（スポーツ社会学、スポーツマネジメント学、体力学、スポーツ計量学、分子スポーツ栄養学、スポーツ医学、保健安全学、スポーツ整形外科学、体育科教育学、トレーニング学、スポーツ運動学、スポーツバイオメカニクス学、スポーツ行動科学、運動健康学、スポーツ内科学、運動行動科学）が開設されており、その各々に1名の研究指導教員が配置されている。各専修における研究指導教員はリサーチワーク（特別研究）とコースワーク（特講ⅠおよびⅡ）を担当し、大学院生は、各自の専門性を高めるために1つの専修を選択してリサーチワークとコースワークを集中的に学修する仕組みとなっている。なお担当指導教員は、研究テーマの設定、研究計画の作成など、専門分野の研究活動に関する指導を行う。大学院学生は、専修科目の特別研究の担当者を指導教員として、研究テーマの設定、研究計画の作成など、専門分野の研究活動に関する指導を受ける。研究指導に基づく一連の研究活動から、研究会や学会などで成果を発表し、修士の学位論文を作成することによって、各分野の専門家としての素養を身につけることを目標としている。

他に共通必修科目として、研究科に所属する全教員（研究指導教員と研究指導補助教員）が担当する特修科目（非専修科目）及び全研究指導教員がオムニバス形式で担当する「体育学研究概論」が開講されている。また非専修科目として、特修科目30科目設置されており、専修以外の内容についても学修できる仕組みとなっている。

年次ごとのスケジュール

1年次

4月～8月：指導教員から研究手法、論文作成に関する指導を受けながら、研究の背景にある情報、先行研究の収集を行い、研究テーマの絞り込みを行う。
 9月～翌3月：研究グループのメンバー単位で行われる報告会で、研究の進捗状況を報告し、指導教員および他の教員、大学院学生から助言・指導を受け、研究の問題点や解決方法を検討する。

翌3月：研究タイトル、研究計画の概要および研究業績（学会・研究会発表の申請中、学会・研究会発表済み（acceptを含む）、論文投稿中、論文掲載済み（acceptを含む））を記載した年次報告書を提出する。なお、長期履修生あるいは留年者等の標準修業年限を超えて在籍する大学院学生は、修了予定前年度まで毎年度末に年次報告書を提出する。

2年次

4月～7月：1年次の研究進捗状況を確認し、必要に応じて研究計画の見直しを行う。

7月～8月：毎年開催される修士論文中間報告会において発表するとともに、学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。

9月～12月：修士論文中間報告会での質疑・コメントに応じて研究計画の追加・修正を行い、学位論文の作成に取りかかる。

翌1月～2月：学位論文提出、全教員および全大学院学生が参加する修士論文発表会で研究成果を発表し、教員および大学院学生からの質疑に答える。

なお、上記によらず、優れた業績を上げたもの、かつ早期履修により必要な単位数を修得したものは標準修業年限から在学期間を短縮して修了することができる。

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

- DP1：斬新かつ独創的な研究課題を設定することができる
- DP2：自らの研究課題に関連する周辺領域の先行研究内容を多角的に理解し、説明することができる
- DP3：自らの研究課題に直接的に関連する先行研究内容を理解し、説明することができる
- DP4：自らの研究課題の目的、方法、結果、およびその意義を説明することができる
- DP5：スポーツ健康科学の発展に貢献する有益かつ新しい知見を見出すことができる

【技能】

- DP6：スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に論文としてまとめ、また、発表する能力を有している
- DP7：スポーツ健康科学分野の高等教育機関あるいは研究機関において、自立して研究活動を遂行する能力を有している

【態度・志向性】

- DP8：自らの研究分野における研究倫理基準を遵守する姿勢を有している
- DP9：自らの研究成果を国内外に広く発信する姿勢と意欲を有している
- DP10：スポーツ健康科学分野の研究者として、自立して研究活動を行う姿勢と意欲を有している
- DP11：自らの研究成果を、スポーツ健康科学分野における先進的指導実践のために応用する姿勢や意欲を有している

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

部門	研究指導科目	単位数	配当年次	期別	知識・理解					技能		態度・志向性			
					DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11
健康運動科学	健康運動科学特別研究	12	1～3	3年通年	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
スポーツトレーニング科学	スポーツトレーニング科学特別研究	12	1～3	3年通年	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
スポーツ医科学 (※1)	スポーツ医科学特別研究 (※1)	12	1～3	3年通年	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
スポーツ教育学 (※2)	スポーツ教育学特別研究 (※2)	12	1～3	3年通年	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
共通	スポーツ健康科学研究法	2	1	前期	◎	○				○	○	◎	○	◎	○

※1 令和3年度以降設置科目 ※2 令和6年度以降設置科目

※博士課程後期の修了の要件は、大学院に3年（標準修業年限）以上在学し、専修科目の特別研究担当者を指導教員として下記で示す所定の単位を修得し、当該課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査、及び最終試験に合格することとする。

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

- ・必要修得単位：14単位以上
- 必修科目：14単位（専修科目12単位、共通必修科目2単位）
- 選択科目：14単位以上（当該又は、他の特修部門の授業科目のうちから14単位以上）

- *一つの専修部門を選定し学生の専修科目とする。
- *専修科目の特別研究担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。
- *専修科目の演習は、3年間12単位の履修を原則とする。
- ・博士の学位論文は、専修科目について提出する。

科目分類の説明

博士課程後期では、主要科目4部門（健康運動科学、スポーツトレーニング科学、スポーツ医科学、スポーツ教育学）を開設している。各研究指導教員はリサーチワーク（特別研究）を集中的に教える仕組みとなっている。なお担当指導教員は、研究テーマの設定、研究計画の作成など、専門分野の研究活動に関する指導を行う。大学院学生は、専修科目の特別研究の担当者を指導教員として、研究テーマの設定、研究計画の作成など、専門分野の研究活動に関する指導を受ける。研究指導に基づく一連の研究活動から、その成果を学会で報告するとともに、専門の学術誌に論文投稿を行い、厳正な査読審査を経験することによって、自立して研究活動を遂行出来る能力を身につける。

また、博士課程後期を担当する全教員（研究指導教員と研究指導補助教員）がオムニバス形式で担当する共通必修科目として、学生が選択した専修以外の内容についても多角的な観点から理解する能力を養うために「スポーツ健康科学研究法」が開講されている。

年次ごとのスケジュール

1年次

- 4月～翌3月：指導教員から研究手法、論文作成に関する指導を受けながら、研究の背景にある情報、先行研究の収集を行い、独創性が高く新規性の高い研究テーマの絞り込みを行う。研究グループのメンバー単位で行われる報告会で、研究の進捗状況を報告し、指導教員および他の教員、大学院学生から助言・指導を受け、研究の問題点や解決方法を検討する。研究成果が得られた時点で、学会等で積極的に発表し、広く国内外での評価を受ける。
- 翌3月：研究タイトル、研究計画の概要および研究業績（学会・研究会発表の申請中、学会・研究会発表済み（acceptを含む）、論文投稿中、論文掲載済み（acceptを含む））を記載した年次報告書を提出する。なお、長期履修生あるいは留年者等の標準修業年限を超えて在籍する大学院学生は、修了予定前年度まで毎年度末に年次報告書を提出する。

2年次

4月：1年次の研究進捗状況を確認し、必要に応じて研究計画の見直しを行う。4月～翌3月：研究グループのメンバー単位で行われる報告会で、研究の進捗状況を報告し、指導教員および他の教員、大学院学生から助言・指導を受け、研究の問題点や解決方法を検討する。引き続き、学会等で積極的に発表し、広く国内外での評価を受けるとともに、査読審査の付いた専門の学術誌へ論文を投稿する。

翌3月：研究タイトル、研究計画の概要および研究業績（学会・研究会発表の申請中、学会・研究会発表済み（acceptを含む）、論文投稿中、論文掲載済み（acceptを含む））を記載した年次報告書を提出する。なお、長期履修生あるいは留年者等の標準修業年限を超えて在籍する大学院学生は、修了予定前年度まで毎年度末に年次報告書を提出する。

3年次

4月～6月：引き続き、学会等で積極的に発表し広く国内外での評価を受けるとともに、査読審査の付いた専門の学術誌へ論文を投稿する。

6月：博士課程後期研究計画書審査会において自身の研究成果を発表し、全教員による口頭試問を受け、審査に合格した者は博士学位論文の作成に取りかかる。

11月～12月：博士学位論文提出、博士課程後期博士論文審査会にて全教員による最終審査を受ける。

翌1月～2月：博士課程後期博士論文審査会における最終審査に合格した者は、全教員、全大学院学生が参加する博士論文発表会で研究成果を発表する。

なお、博士課程後期における早期修了については、博士課程前期を修了し、かつ博士課程に3年間以上の在学期間があるものについて、必要単位数の取得のほかに優秀な研究業績のもと研究成果を研究計画書審査会および博士論文審査会の審査に合格し、また博士論文発表会で発表した者が対象になる。